

西 ～にし～

Good News

■府中けやきの森学園 -校内研究の充実 全員参加型の研究システム-

本校は、知的障害教育と肢体不自由教育の2部門、小中高の3学部がある大規模な特別支援学校です。そのため、校内研究を実施する場合は、教員の人数が101名と多く、以下のような課題がありました。

課題

1. 全教員で学びを共有しようとすると、研究対象となっている学習グループが、担当している児童・生徒の実態と合わない場合、学びの効果が薄れてしまう。
2. 研究対象となった学習グループに、負担がかかる。




この課題を解決するために、4点の改善点をあげ、全員参加型の研究システムとして推進しました。

改善点

1. 全学習グループを研究対象とし、年1回以上の研究授業を実施する。
2. 毎月1回25分研究会を積み重ねて、授業改善を進める。
3. 外部専門家に、研究授業の助言や研究会の講師を依頼し、継続的に助言が受けられるようにする。
4. 各学部の研究会の運営は、各学部の研究研修部が主体的に実施する。

全員参加型の研究システム

以下の3つを毎月循環させながら、授業改善を進めています。

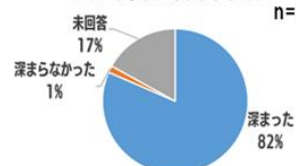
1. 研究グループによる 研究授業の実施	2. 月1回25分間研究会の実施	3. 外部専門家の活用
 <p>知的障害教育 27グループ、肢体不自由教育 16グループが研究授業を実施し、改善に取り組んでいます。</p>	 <p>授業について課題を共有し、互いにアドバイスを出し合いながら改善を進めています。毎月の積み重ねを大切にしています。</p>	 <p>外部専門家からの「研究授業への助言」と「全体への講義」を組み合わせ、専門的な知識を構築しながら実践につなげるように工夫しています。</p>

まとめ

全員参加型の研究システムに取り組み、3年目になります。運営は、各学部の研究部が主体となり進めます。そのため、学部の課題にきめ細やかに対応できるようになりました。これらの改善が実り、今年度の夏季授業改善研究会後のアンケートでは、82%の教員が「自己の授業改善につながる学びが深まった」と回答しました。今後も、創意工夫をしながら、教員の授業力の向上、児童・生徒のQOLの向上を目指して取り組んでいきます。
(研究研修部 指導教諭・山下さつき)



Q1 学部研究の分科会では、自己の授業改善につながる学びが深まりましたか？ n=65



配信済みのGood Newsは、以下の掲示板から御覧になれます。

[【令和5年度GoodNews】](#) [【令和4年度特集号】](#) [【令和4年度GoodNews】](#) [【令和3年度GoodNews】](#)